

救いの基礎

改訂版

— 聖書が語る世界 —

また、自分が幼いころから聖書に
親しんできたことも知っているからです。

聖書はあなたに知恵を与えて、
キリスト・イエスに対する信仰による救いを
受けさせることができます。

テモテへの手紙 第二 3:15



目次

| | |
|-------------------------|----|
| さあ始めましょう 一手引「救いの基礎」の使い方 | iv |
| はじめに | 1 |
| 「聖書」について | 3 |
| 1 課 世界の創造 | 4 |
| (1) 造り主である神 | 4 |
| (2) 造られた人と非常に良い世界 | 6 |
| 2 課 人の背き | 10 |
| (1) 問題のはじまり | 10 |
| (2) 問題の広がり | 11 |
| 3 課 回復の約束とメシアの誕生 | 14 |
| (1) 回復の約束 | 14 |
| (2) メシアの誕生 | 16 |
| 4 課 メシアなるイエス | 18 |
| (1) イエスの働き | 18 |
| (2) イエスの教え | 20 |
| (3) 十字架上の死 | 22 |
| (4) イエスの復活 | 24 |
| 5 課 十字架の死の意味 | 26 |
| (1) 罪の赦し | 26 |
| (2) 罪の奴隷からの解放 | 28 |
| (3) 死に勝利してよみがえるため | 30 |
| (4) 全被造世界のため | 31 |
| 6 課 良い世界の完成に向かって | 34 |
| (1) 昇天、聖霊降臨、教会の始まり | 34 |
| (2) 聖霊によるキリスト者の歩み | 36 |
| (3) 良い世界の完成 | 38 |
| おわりに | 40 |
| 信仰への招き | 42 |
| 使徒信条 | 44 |

さあ始めましょう

— 手引「救いの基礎」の使い方 —

1. この手引は、聖書を初めて学ぶ人のため、また、洗礼の準備やキリスト者が信仰を再確認するために作られました。
2. 参照聖書箇所、また、課やセクションの最後にある「考えよう」の質問は、状況に応じてお使いください。解釈の違いがある場合は、教会の指導者の立場を尊重してください。
3. 各セクションの◆印のある箇所（出だしとまとめ）を読みつなぐと、約30分ほどで手引を概観がいかんすることができます。導き手の方は、あらかじめ、手引のあらすじをつかんでおくと、グループの学びが的確になります。より詳しく準備したい方は、聖書を読む会発行の「神のご計画」をご参照ください。
4. 本手引は6課、全17セクションに分かれています。一つのセクションはほとんどが2ページの見開きで、およそ30分で学ぶことができます。
5. この手引では「聖書 新改訳2017」(以下、新改訳)に準拠し、「聖書聖書協会共同訳」(以下、共同訳)と大きく違う場合は、〔 〕で共同訳を記しています。聖書箇所の略式表示は、新改訳巻末のリストに従っています。

例) イザヤ書45章18節 → イザ45:18

凡例

脚注 下線のある言葉（例：「われわれ^a」）などは、各ページの下（脚注）に解説があります。脚注にある聖書箇所は確認のためのもので、学びの場では開く必要はありません。

コラム まとまった説明がされている用語です。

コラムのテーマとページ

| | |
|---------|----|
| 神のかたち | 8 |
| 信仰と自然科学 | 8 |
| 神の子 | 17 |
| 主 | 17 |
| 使徒 | 25 |
| パウロ | 25 |

| | |
|------------------------------------|----|
| 他の被造世界 <small>ひぞうせかい</small> との関わり | 32 |
| 初期の教会の広がり | 32 |
| 2000年にわたる教会の歩み | 41 |

はじめに

きらめく満天の星、雪をいただく山々、また足元に咲く可憐な花を見る
とき、私たちは、そこに秘められた不思議な秩序に驚き、世界は美しい
と感ずります。また、災害や貧困に苦しむ人々のために献身的に働く人の
姿に感動し、その気高さに胸を打たれます。あるいは、難病を癒し、グロー
バル・コミュニケーションを可能にし、宇宙のなぞに迫る科学の進歩に
目を見張ることもあるでしょう。しかし同時に、エネルギー問題や地球
の温暖化、貧富の差の広がり、地球上には食料が十分にあるにもかかわらず深刻化する飢えの問題、そして、終わりの見えない紛争や戦争に直
面しています。また、身近なところでは、家庭が崩壊して心に傷を負い、
将来が不安で孤独な人々が増えています。

世界は美しさで満ちているのに、一方でそこに根深い問題が存在する
のはなぜでしょう。人はどこから来てどこへ行くのでしょうか。私たちは
何を基準にして、どのように生きていったらよいのでしょうか。問題に直
面し、自分の力の限界を感じ、希望を失いかけたとき、それをどのよう
に乗り越えていったらよいのでしょうか。

一緒に語り合いながら、聖書の語るメッセージに耳を傾けていきま
しょう。

「聖書」について

キリスト教信仰の土台となる聖書は、旧約聖書39巻と新約聖書27巻、合計66巻からなる書物で、千数百年にわたり、様々な人によって書かれ編集されてきたものです。

聖書の旧約とは「^{ふる}古い契約」、新約とは「^{あたら}新しい契約」という意味です。正統的なキリスト教は西方教会（ローマ・カトリック、プロテスタントなど）も東方教会（ギリシャ正教会、ロシア正教会など）も、この旧約聖書と新約聖書を正典（神の^{ことば}として^{けんい}権威をもった書物）としています。

聖書の内容

「旧約聖書」

神による天地創造と人類の^{そむ}背きから始まり、アブラハムというひとりの人の選び、その子孫であるイスラエル民族の歴史へと続き、将来、メシア（救い主）が来て、全世界を救うという約束が書かれています。

「新約聖書」

イエスこそが約束されたメシアである、と語るのが新約聖書です。イエスの誕生、教えと働き、十字架の死と復活、また、それに続く教会に^{たく}託された使命と希望、そして、イエスが再びこの地上に来られるときに、神のご計画のすべてが完全に実現することが書かれています。

以上が聖書の^{がいかん}概観です。

では、聖書を開いてみましょう。

1 課 世界の創造

◆ 私たちはどこから来て、どこに行くのでしょうか。世界には、宇宙の成り立ちや自分の存在の意味を説明するために、無神論や無宗教も含めて様々な考え方があり、その多くは歴史(物語)の形をとっています。では、聖書はどのような歴史を語っているのでしょうか。

(1) 造り主である神

創世記1:1-2:3

- 1 聖書は、この世界がどのように出来たと伝えていますか(1:1)。そのことから、聖書の語る神について、どのようなことが分かりますか。
- 2 1:1-5で、神の行為を表すことば(動詞)をあげましょう。そのことばから、神についてどのようなことが分かりますか。
- 3 茫漠[混沌] (1:2)としていた大地は、どのように変化していきましましたか(1:2-28)。その順番に何かしらの意図があるとすれば、それは何だと思えますか。
- 4 1:20からは「生き物」と「人」の創造が記され、神はそれを「祝福し」(1:22、28)、食物を「与え」ています(1:29-30)。そのことから、神は、「生き物」と「人」にどのような思いを持っていると思えますか。
- 5 神は、一つひとつのみわざを終えるたびに何をしていますか(1:4、10、12、18、21、25)。
- 6 「良い」と訳されたヘブル語は、「美しい」、「良くできている」といった意味もあります。あなたは、自然界を見て、「美しい」、

「良くできている」と驚いた経験けいけんがありますか。いくつか、分かち合ってみましょう。

- 7 そのような良い世界を造られた神の性質や能力は、どのようなものだと思いますか。
- 8 第六日目、神はご自分が造ったすべてのものを見ました。最初の世界はどのようなものでしたか (1:31)。神はどうしてそのように判断はん断したのでしょうか。
- 9 神は、第七日目に何をしましたか (2:1-3)。

まとめ

聖書の語る神は、ことばを用い、知性と芸術性げいじゆつせいを注いで世界のすべてを造られた方、生きるものにいのちと食物を与える愛の神です。神はこの世界を、秩序せいじがあり、精巧せいこうで美しく、全体として調和ていごうのとれた「非常に良い」〔極めて良い〕ものとして造りました。そして、第七日目に、そのわざを完成して、その日を祝福しました。

世界の歴史はこのようにして、神の愛と祝福のうちに始まったのです。

考えよう

- 1 あなたは、「神」について、どのようなイメージを持っていましたか。この学びの後で、変化した点がありますか。単なる目に見えない「力」と、どう違うでしょうか。
- 2 私たちが、神に愛されて造られた「良い」存在であるならば、私たちは自分のことをどのように見たらよいでしょうか。他の人や造られた世界はどうでしょう。

(2) 造られた人と非常に良い世界

◆ 神は、この世界を非常に良いものとして造りました。その中でも「人」は特別な存在でした。人はどのように特別なのでしょうか。

全地の王として造られた人 創世記1:26-28

- 1 神は人をどのようなものとして創造しましたか (1:26-27)。
われわれ^a、p.8 コラム「神のかたち」参照。
- 2 人は、神の似姿〔姿〕^{にすがた}に造られたとあります。人は、どのような点で神に似ているのでしょうか。神がどのような方か、セクション(1)で学んだことを思い出しましょう。
- 3 人が「神のかたち」として創造されたのは、王として被造世界^{ひそうせかい}を支配〔治め〕させるためでした (1:26-28)。人はどのように支配す〔治め〕ることが求められていたと思いますか。神に似ている点から考えましょう。

エデンの園での生活 創世記2:4-25

創世記1:1-2:3では、神の創造のみわざの全体像が書かれていますが、2:4からは、エデンの園のアダムとエバに焦点^{しやうてん}があてられています。

- 1 エデンの園は、どのようなところですか (2:4-14)。
- 2 人はエデンの園で何をしていましたか (2:15)。それは地を従わせ、生き物を支配す〔治め〕ること (1:28) とどのような関係があると思いますか。

^a われわれ：古代中近東では、王や神などの尊い存在に「われわれ」などの複数形が使われることがありました。神が複数いるのではありません。

- 3 人はすべての家畜、空の鳥、また野の獣^{けもの}に名^aを付けました (2:19-20)。そのことは何を表していると思いますか。
- 4 神は人のために、ふさわしい「助け手^b」として女を造りました (2:18-22)。他にも沢山の生き物がいたのに、なぜ女だけがふさわしい助け手なのでしょう。創世記1:26-28から考えましょう。
- 5 男と女が出会ったとき、男は何と応答しましたか。二人はどうなりましたか (2:23-25)。



人は他の生き物と違い、特別に「神のかたち」として造られました。神に似た資質^{しじつ}や能力が与えられ、全地を治めるために造られたのです。

男と女は、植物や生き物をよく観察し、それぞれの特質を見極め^{きわめ}、育てていきました。二人の生活は、造り主への賛美と感謝、互いへの愛に満ちていました。また、園での労働は、喜びと創造性に満ち、その実りも豊かだったことでしょう。そのすべての営み^{いとな}が、愛と正義、芸術性^{げいじゆつせい}と知性に富んだ神を示すものでした。

そして、そのような世界全体が、調和^{ちやうわ}のとれた「非常に良い〔極めて良い〕」ものだったのです。

^a 名：聖書では、名前は、その本質や特徴を表すものです。人は、生き物に愛を注いで関係を築き、本質を見極めて名前を付けていきました。

^b 助け手：「男のためにお手伝いをする人」という意味ではなく、敵と戦って負けてしまいそうなときに、助け手である神によって勝利する、というように使われる、かけがえのない存在を示す言葉です。



考えよう

- 1 アダムとエバが、エデンの園で具体的にどのような生活をしていたかを想像してみましょう。神への礼拝、夫婦関係、仕事の内容、仕事や生活のあり方などはどうだったと思いますか。
- 2 創世記4章では、職業が多様化していったことがわかります(4:20-22)。家事、育児を含め、私たちのすべての^{いとな}営みが、地を治めることであるとしたら、私たちはどのような姿勢で働いたら良いと思いますか。

コラム

「神のかたち」

古代中近東では、すべての人が何らかの神を信じていました。そのような社会で使われていた「神のかたち」という言葉は、一国の王を指しました。「王は目に見えない神の、目に見える^{かたち}像である。王には、愛と正義によって国を治める^{けんげん}権限と責任が、神から与えられている」と考えられていたのです。実際、前21世紀のウル・ナム法典や、前18世紀のハンムラビ法典を見ると、古代の王には、正義を行い、弱者を救う務めがあることが分かります。王を指したこの言葉が、聖書では人類全体を指して使われています。人類は、「世界をいつくしんで正しく治める**全地の王**」として造られたのです。

コラム

「信仰と自然科学」

キリスト教の視点から考える自然科学とは、神が造られた世界の^{こうぞう}構造や法則を、神に与えられた知性で^{かいてい}解明しようとする^{いとな}営みで、それは人類に与えられている^{たまもの}使命と賜物の一つです。

「創造と進化」に関しては、「神は直接世界を創造した」、「神は進化のプロセスを導いて世界を創造した」など、様々な立場があります。どの立場にしても、キリスト者は、「人格を持つ^{ゆい}唯一で全能の神が、無から^{ちっしょ}秩序ある世界を創造した」と理解しています。